とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都品川区東大井 4-7-9　1 階
園名	まほうの保育園東大井

1　活動のテーマ

＜テーマ＞

ひかりとのかかわり ～光と影の不思議を探究する～

＜テーマの設定理由＞

日頃の製作活動でカラーセロファンを使用した際、それを透かして色の変化を楽しむ姿が見られました 。子どもたちの「もっと見たい」「不思議だな」という好奇心を広げるため、園の特色である自由な発想を大切にする環境設定を活かし、プロジェクターや様々な素材を用いた「光と影」の探究活動をテーマに設定しました 。

2　活動スケジュール

12 月上旬： 1 歳児クラスでの実践（光に触れる、色の変化を楽しむ）
12 月中旬： 2 歳児クラスでの実践（影の形への興味、素材による映り方の違いを発見する）

3　活動のために準備した素材や道具、環境の設定

視覚的環境： 室内を暗くし、プロジェクターで壁面に光を投影。暗がりを怖がる子に配慮し、安心感を与えるプラネタリウムライトも併設しました 。
探索素材： 光を透過するカラーセロファン、オーガンジー、マグネット玩具に加え、2 歳児向けには緩衝材（プチプチ）や透明ビニールなどの廃材を多めに用意し、影の質感の違いを楽しめるようにしました 。

4　探究活動の実践

＜活動の内容＞

1 歳児の姿： 最初は非日常的な空間に緊張していましたが、すぐに光や投影された映像を追いかけ始めました 。スカーフを光にかざして自分の体に色がつくことを喜んだり、セロファン越しに世界の色が変わる様子をじっと見つめたりする姿が印象的でした 。2 歳児の姿： 先に活動していた 1 歳児の様子を見ていたため、開始前から期待感に溢れていました 。

2 歳児は光そのものより「影の形」に強い興味を示し、動く影を捕まえようとする「もぐらたたき」のような遊びに発展しました 。また、複数のセロファンを重ねて新しい色が生まれる発見をしたり、廃材の凹凸が複雑な影を作ることに気づいて繰り返し試したりする探究心が見られました 。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

5　振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

発達による探究の違い： 1 歳児は「光による色の変化」という感覚的な楽しみが中心でしたが、2 歳児は「なぜこんな形になるのか」という対象物の変化や物理的な現象に興味が移行していることが分かりました 。

今後の課題： シルエットクイズでは、壁の影よりも保育者の手元に注目が集まってしまったため、投影距離や提示方法を工夫することで、より視覚的な不思議さを強調できると感じました 。活動終了時に「明日もやりたい！」という声が多く上がったため、日常保育の中でも光を取り入れたコーナー遊びを継続していきたいと考えています 。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都品川区東大井 4-7-9　1 階
園名	まほうの保育園東大井

1　活動のテーマ

＜テーマ＞

ひかりとのかかわり ～ひかりとかげの表現遊び～

＜テーマの設定理由＞

12 月に室内でプロジェクターを用いた光遊びを経験したことで、子どもたちの間で「光を通すと色が変わる」「影を動かせる」という発見への意欲が高まっていました 。1 月は、冬の澄んだ自然光が差し込む窓辺での遊びや、異なる素材を組み合わせることで生まれる「質の違う影」への興味を深めることを目的として、このテーマを設定しました 。

2　活動スケジュール

1 月中旬： 1 歳児クラス：光を通す素材（セロファン、オーガンジー）を用いた「色の世界」の探索
1 月下旬： 2 歳児クラス：廃材や身近な物を用いた「影の形・質感」の実験と、色の重なりの発見

3　活動のために準備した素材や道具、環境の設定

準備した物： プロジェクター、カラーセロファン、オーガンジー、マグネット玩具に加え、緩衝材（プチプチ）、透明容器、カラーポリ袋、鏡 。
環境デザイン： 室内を暗くした空間（人工光）だけでなく、日中の窓辺（自然光）に色セロファンを提示し、光の強さによる色の見え方の違いを感じられる環境を整えました 。また、12 月の経験から暗がりを怖がる子への配慮（プラネタリウムライトの設置）も継続しました 。

4　探究活動の実践

＜活動の内容＞

1 歳児の姿： スカーフやセロファンを自分の顔に近づけ、視界全体の色が変わる現象を繰り返し楽しんでいました 。12 月の時よりも自発的に「これを通すとどう見えるかな？」と素材を選び、光にかざして自分の手足に映る色を不思議そうに見つめる姿が見られました。
2 歳児の様子： 12 月は「影を追う」遊びが中心でしたが、1 月は「どうすればこの影ができるか」という因果関係への関心が強まりました 。複数のセロファンを重ねて「緑になった！」と色の変化を報告し合ったり、緩衝材の凹凸が投影される様子を見て「キラキラしてる」と質感の違いに気づいたりする姿がありました 。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

5　振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

深化する探究心： 12 月の「導入」を経て、1 月は子どもたちが素材の特性を理解し、自ら遊びを工夫する姿が見られました 。特に 2 歳児において、意図的に色を重ねる、影の形を作るなどの「実験的」な行動が増えたことは大きな成長です 。
環境設定の有効性： 12 月より素材（廃材やビニール類）を充実させたことで、遊びが単調にならず、子どもの「知りたい」という気持ちを持続させることができました 。
今後の課題： 子どもたちの興味が「色の合成」や「反射」へと広がっているため、今後は鏡や水など、より光を反射・屈折させる素材を取り入れ、科学的な視点を育む活動へ繋げていきたいと考えています。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都品川区東大井 4-7-9　1 階
園名	まほうの保育園東大井

1　活動のテーマ

＜テーマ＞

ひかりとのかかわり ～自分で作り・映し出す、ひかりのあそびば～

＜テーマの設定理由＞

12 月・1 月の活動を通じ、子どもたちは光が色を変えたり、影が形を作ったりする現象を十分に楽しんできました。3 月はその集大成として、受け身で光を見るのではなく、「自ら懐中電灯を持ち、光を操る」「素材に描いた絵や模様を投影する」といった、より意図的・創造的な探究を促すためにこのテーマを設定しました。

2　活動スケジュール

3 月上旬： 素材（紙コップ・セロファン）を用いた「自分だけの投影機」作り
3 月中旬： 1 歳児・2 歳児合同：懐中電灯を使った光の探索と、壁面への投影遊び

3　活動のために準備した素材や道具、環境の設定

準備した物： 懐中電灯、紙コップ、サインペン、カラーセロファン、遮光カーテン。
環境デザイン： 室内を完全に暗くできる空間を用意しました。以前の活動で暗がりを怖がっていた子も、今回は「自分で光（懐中電灯）を持てる」ことで安心感と主体性を持って参加できるよう配慮しました。壁一面を大きなスクリーンに見立て、自由に光を当てられる広さを確保しました。

４　探究活動の実践

＜活動の内容＞

1 歳児の姿：プロジェクターの固定された光ではなく、自分の手に持った懐中電灯から光が出ることに驚きと喜びを感じていました。ライトを壁にピタリとくっつけると小さな円になり、離すと大きく広がる様子に気づき、何度も腕を前後に動かして光の大きさを変える「実験」を繰り返していました。また、床に置いたカラーセロファンに自ら光を当て、自分の足元が赤や青に染まるのを見つけると、まるでお風呂に入っているかのようにその光の中に座り込み、全身で色の世界に浸る姿が印象的でした。

2 歳児の姿：これまでの活動で得た「透ける」「重なる」という知識をフルに活用していました。紙コップの底に描いた自分の絵が壁に大きく映し出されると、「おばけだぞー！」「私の描いたお花、光った！」と友達と見せ合い、光を通した表現を存分に楽しんでいました。さらに、懐中電灯の前に手をかざして「影絵」を作ろうとしたり、友達のライトと自分のライトをわざと重ねて「ここだけ色が違うよ！」「もっと濃くなった！」と、色の混ざり合い（加法混色）への初期的な気づきを言葉にして伝え合うなど、一段深い探究心と協同的な学びの姿が見られました。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

５　振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

主体性の深化： プロジェクターなどの据え置きの光ではなく、手持ちのライトを使用したことで、子どもたちの「自分の意思で光を動かしている」という万能感やワクワク感がより強く引き出されました。

継続の効果： 12 月からの継続により、セロファンを見れば「あ、色が変わるやつだ！」と即座に理解し、迷わず遊び始める姿に、これまでの探究の積み重ねを感じました。

今後の展望： 3 ヶ月間の活動を経て、光への興味は「描く・作る」という表現活動へと繋がりました。進級後も、この好奇心を大切にしながら、季節ごとの自然光の変化や影の観察など、日常の中の小さな不思議を拾い上げていきたいと考えています。